

# 心のほけんだより No.6

2025年8月29日 天王寺川中学校 保健室発行

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。  
同じ過ちを繰り返さないために、多くの方が事実を知る必要があります。

原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。  
昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。  
この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。  
誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々。  
涙とともに止まらない、絶望の声。  
一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から80年が経つ今、  
本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、  
直接話を聞く機会は少なくなっています。  
どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、  
記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。  
大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。  
多様性を認め、相手のことを理解しようとする。こと。  
一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、  
傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。です。  
周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、  
いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはず。です。  
大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。  
あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、  
私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていけます。



これは、8月6日、広島での平和記念式典で、広島市内の小学6年生の  
関口さんと佐々木さんが述べた「平和への誓い」です。

みなさんに、今一度「平和」について自分のこととして考えてほしいと思  
い、「平和への誓い」を紹介しました。

- まずは、学校生活で、学級で、みなさん一人一人が
- ・ 友達のことを理解しようとする。
  - ・ 相手の考えに寄り添う。

このような行動ができれば、誰もが居心地の良い学校、学級になるのでは  
ないのでしょうか。